

004 TICA

題名	著者	データベースから	コメント
らんぼう ☆☆	大沢在昌	185センチ・柔道部出身の「ウラ」、小柄ながら空手有段者の「イケ」。凸凹刑事コンビの共通点はキレやすく凶暴なこと。検挙率は署内トップだが無傷で彼らに逮捕された被疑者はいない。ヤクザもゾクもシャブ中も、彼らの鉄拳の前ではただ怖れをなすばかり。情け無用、ケンカ上等、懲戒免職も何のその!「最凶最悪コンビ」が暴走する痛快無比の10篇。	暴力的な人の話は苦手。 でも、度を超えたでたらめな行動と強靭さは正義なのでまあ許す。
嘘を もうひとつ だけ ☆☆	東野圭吾	バレエ団の事務員が自宅マンションのバルコニーから転落、死亡した。事件は自殺で処理の方向に向かっている。だが、同じマンションに住む元プリマ・バレリーナのもとに1人の刑事がやってきた。彼女には殺人動機はなく、疑わしい点はなにもない。ところが…。短編。	再読。
天上の青 (上下巻) ☆	曾根綾子	波多雪子は庭先を通りかかった男と知り合った。その男は、やや投げやりな性格であったが、優しい一面も見せ、時おり訪れては話をするようになっていった。だが男には別の顔があった。自らを詩人と称して女性を誘い、犯し、殺しては埋めるという冷酷な人間。雪子はまだその顔を知らなかった…。	すごく古臭い文章と話。 主人公が最低な男を好きになったのにびっくり。
雅子妃 悲運と中傷 の中で ☆☆	友納尚子	雅子妃がご病気になられたのは2003年のことだった。皇太子とのご成婚の日、沿道を埋めつくした国民の祝福を受けて、晴れやかな笑顔で手を振っていた雅子妃はどこに行ってしまったのか。何が雅子妃を追い詰めたのか。本書は雅子妃の幼少期からの半生をつぶさに辿ることによって、その答えを捜そうとするものである。皇太子の「人格否定発言」後の東宮は、そして、雅子妃の現在と今後は……。3年間の取材が結実した、稀有の皇室ノンフィクション!	雅子さんを病気にしたのは宮内庁の昔人間。皇太子に選ばれなかったら雅子さんはもっと幸せだったのではとどうしても思ってしまう。
仮想儀礼 (上下巻) ☆☆★	篠田節子	男二人が金儲けのために始めたネット宗教。しかし、信者の抱える闇は、ビジネスの範疇を超えていた。家族から無視され続けた主婦、愛人	ビジネスとしての宗教が商業ベースに乗

		としてホテルで飼われていた少女、実の父と兄から性的虐待を受ける女性……居場所を失った女たちが集う教団は、次第に狂気に蝕まれてゆく。圧倒的密度と迫力！ 二十一世紀の黙示録的長篇サスペンス。	るまでの上巻より頂点から引きずり下ろされる下巻の方が面白かった。
雪が降る ☆☆	藤原伊織	母を殺したのは、志村さん、あなたですね。少年から届いた短いメールが男の封印された記憶をよみがえらせた。苦い青春の日々と灰色の現在が交錯するとき放たれた一瞬の光芒をとらえた表題作をはじめ、取りかえようのない過去を抱えて生きるほかない人生の真実をあざやかに浮かびあがらせた、珠玉の六篇。	再読
警察庁から 来た男 ☆☆★	佐々木譲	北海道警察本部に警察庁から特別監察が入った。監察官藤川は半年前道警の裏金問題の為にうたった（証言した）津久井刑事に監察の協力を要請した。一方、佐伯刑事はホテルでの部屋荒らしの捜査を進めていた。被害者は、すすきの風俗営業店で死んだ男の父親だった。大通署に再捜査の依頼の為、そのホテルに泊まっていたのだという。佐伯は、部下の新宮と事故現場に向かう…。道警シリーズ第二弾	『笑う警官』の続編なので登場人物には馴染みがあるが、主人公佐伯のジャズの話にはまだ馴染めない。

○私服だらけの中居正弘 増刊号 ～輝いて～

2007年1月から2009年6月までの「笑っていいとも！」の番組出演時の私服の記録。370円。アイドルがネタにされて笑われたりだめな部分を見せるようになった先駆けが中居くんじゃなかろうか。シモネタ中心のお笑い芸人より、中居くんや嵐やキンキキッズの方が話が面白い。中居くんはMCもうまいし頭のいい人なんだろうと思う。思うけどね。思ってたけどね。…芸能界向きの頭のよさなのねえ。びっくりするくらい文字がへた。「ら」か「ろ」かわからないくらいだし、「かバ」なんて書き方もする。絵の下手さもすごい。草なぎくんの下手うまな絵は画風だと思ってもいいけど、中居くんの絵は観察眼以前の問題。服のセンスも、お金があるのにとっても残念。電車の中でこの本を見てたら大変だったと思う。

